



にぎわい東北
— つなげよう、ふるさとのチカラ

AEON

2016年3月28日

報道関係者各位

イオン株式会社
株式会社サンデー
マックスバリュ東北株式会社
マックスバリュ南東北株式会社
イオンスーパーセンター株式会社

南相馬市小高を芝桜で満開に 4/3（日）南相馬市小高区花苗植栽活動のご案内

イオングループ4社（株式会社サンデー・マックスバリュ東北株式会社・マックスバリュ南東北株式会社、イオンスーパーセンター株式会社）は4月3日（日）南相馬市小高区 JR小高駅にて地域の皆さまとともにグループ4社の新入社員が中心となり花苗植栽活動を実施しますので、ご案内申し上げます。

このたびの花苗植栽活動は、4月1日に入社した当イオングループ4社の新入社員がこの東北の地で社会人としてのスタートを切るにあたり、研修の期間を利用して、自らが東北の復興支援活動の一助となり、新たに東北のお客さまとのつながりを作ることは出来ないか、という思いから、4月3日（日）JR常盤線の小高—原ノ町駅間の営業再開に合わせて計画したものです。

小高区周辺は「避難指示解除準備区域」ながら、5月以降に居住可能の方向で検討されており、今後JR小高駅を中心に地域の皆さまや観光客で賑わい、多くの方々をつなぐ場所となることを願い、花苗植栽をさせていただくこととなりました。当日は、地域住民の皆さま、イオングループのボランティア、新入社員あわせて約130名（予定）とともに、芝桜の花苗3200ポットを植栽します。

また、花苗植栽後は、NPO法人 浮船の里 久米 静香様より「ふるさとで普通に暮らすことのありがたさ」と題してご講話を頂き、小高区の今を学ぶ中で、東北の成長・創生の視点を自らの仕事の中に見いだしていきたいと考えています。

イオンはこれからもグループ一丸となって、東北の「復興」から次のステージの「成長・創生」のため、地域の皆さまと手を携え取り組みを進めてまいります。

【南相馬市小高区花苗植栽活動について】

- 日 時： 4月3日（日）10：00～14：15 ※9：45～報道受付
- 場 所： 福島県小高区 JR小高駅 駅前
福島県南相馬市小高区東町1-140
- 花苗植栽数： 3,200ポット
- 花苗種： 芝桜
- 参加人数： 約130名（予定）
- 主な参加者
（予定）

南相馬市 市長	桜井 勝延様
南相馬市小高区役所 所長	安部 克巳様
東日本旅客鉄道株式会社 原ノ町駅長	鈴木 浩様
双葉屋旅館 若女将	小林 友子様
イオンスーパーセンター(株)代表取締役社長	東尾 啓央
イオン心をつなぐプロジェクトリーダー	佐藤 忠美

7. 主 催： イオングループ4社
 8. 協 力： 南相馬市・東日本旅客鉄道株式会社・小高ワーカーズベース
 小高を応援する会・アンテナショップ希来・NPO浮船の里
 9. 後 援： イオン 心をつなぐプロジェクト仙台事務局
 10. スケジュール： 9：15 参加者朝礼
 10：00 開会式
 ご来賓ご挨拶
 主催者挨拶
 目録贈呈
 オリジン東秀(株)、(株)イオンイーハート、イオンマーケット(株)
 「小高を応援する会」へ贈呈者代表あいさつ
 10：30 花苗植栽スタート（12：00終了予定）
 昼食休憩後浮船文化会館ホールへ移動
 13：15 NPO法人浮船の里 久米 静香様によるご講話
 （浮船文化会館大ホール）
 14：15 終了

ご参考

2016年度イオングループ合同新入社員研修【東北エリア】

【テーマ】仕事を通じて東北の成長・復興支援の一翼を担う

- 4/1（金）[千葉県千葉市] イオングループ合同入社式 幕張本社より福島県いわき市へ移動
 4/2（土）[福島県いわき市] 東日本大震災体験従業員経験談を聞いて「小売業の存在価値・地元東北のために働く」事を考える
 4/3（日）[福島県南相馬市] 南相馬市小高区JR 小高駅前花苗植栽
 福島県NPO法人浮船の里 久米 静香様によるご講話
 「ふるさとで普通に暮らすことのありがたさ」
 福島県公設商業施設「ひろのてらす」・イオン広野店見学視察
 4/4（月）[福島県いわき市] 新入社員によるグループディスカッション
 「東北エリアのイオンピープルとして目指すべき姿とは」

「にぎわい東北 - つなげよう、ふるさとのチカラ」



東日本大震災から5年。
 「復興」から次のステージの「成長・創生」へ。
 イオンは“にぎわい”をテーマに、
 笑顔があふれる未来に向けて動き始めます。
 東北の生産者の方々と東北のお客さまをつなぐ。
 東北のチカラを、日本各地、世界各国の皆さまへつなぐ。
 地域のお客さまの想いを、未来の成長へつなぐ。
 ふるさとのチカラを、未来へ。世界へ。
 イオンはこれからも、東北を起点に日本各地、
 さらに世界各国の皆さまと手をたずさえ、歩み続けてまいります。